

別紙様式

令和6年度使用小学校用教科用図書の採択結果等について

学校名	広島大学附属三原小学校
-----	-------------

種目	発行者	採 択 理 由
国語	教出	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心を喚起する読み応えのある学習材が多く配列されている。 ・考えを伝え合う話し合い活動では、ミニディベートやパネルディスカッションの形態を指導することができ、より立場を明確にしながら話したり聞いたりする活動が仕組める。 ・教科書のもくじが見やすく、次のページの「この本で学ぶこと」にて当該学年で学ぶ学習内容が一覧できるので、児童たちにとって学びの見通しをもちやすく、また、教師もより計画的な教育活動が展開できる。 ・学び方について、見通しと振り返りの視点、具体的な学びの視点が単元の中に示されており、児童が学習の見通しをもって学びを進められるように配慮されている。 ・巻末資料で、当該学年での読みたい本や言葉の道宝箱（書くときの注意事項など）、言葉の木（言葉を広げる資料）、情報のまとめ、「ここが大事」（各領域のまとめ）などが示されており、主体的に学ぶための資料としての価値が高い。
書写	教出	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書に準拠しており、国語の学習と関連させて学習を進めることができる。 ・「学習の進め方」で書写学習のプロセスが示され、各単元の流れも準拠しているため、書写学習が自然に定着しやすく、日常生活に学びを生かしやすい。 ・単元の最後に、「生かそう」という学校生活や日常生活に生かす課題が設定されており、学習がより生きるように配慮されている。 ・「伝統的な言語文化」に関して、文字文化の観点からの学びが促されるように工夫があり、発展的な学びへつなげられる。

種 目	発行者	採 択 理 由
社会	日文	<ul style="list-style-type: none"> ・発問が厳選され、見開きに1つの中心発問が提示されている。また、発問に対して、紙面上での子どものやり取りが行われ、子どもの「気づき(!)」や「問い(?)」を基にしながら単元が進められている。これら二点から、発問へのこだわりと子どもの思考の文脈に沿った授業づくりを大切にしていることがわかる。また、発問の厳選によって生まれた「考える余白」があり、教師が新たに単元を創っていく上で、教科書を基にしながらも、自己の教材研究を重ね合わせながら、子どもの声で授業をつくっていくことが期待できる。 ・掲載されているインタビューした人物が多様であり、多くの立場で物事を見ることができるよう工夫されている。 ・第3学年：地理的な内容として、日本の縮図と言われる兵庫県が掲載され、さらに日本で初めて世界文化遺産に認定された姫路城を中心とした町について取り扱われている。姫路市には、離島もあり、様々な視点から町を見ることができる。 ・第4学年：災害の事例が充実している。防災の単元として、多様な災害とそれに関わる市町村が多く取り扱われており、防災について命を守るための心がまえをつくったり、市民を守るための町の仕組みについて考えたりすることができる。 ・第5学年：さまざまな土地の暮らしについて、「わたしたちの住む地域と比べて」という見出しで、常に比較を促しながら、単元を進めている。単元の最初のページに、低い土地・高い土地・あたたかい土地・寒い土地のすべての地図情報が掲載されており、それぞれの土地の特徴について、自分の住んでいる町の特徴と比較できるように構成されている。 ・第6学年：平成26年広島豪雨災害や平成30年西日本豪雨について取り上げられ、行政の復旧・復興への取り組みについて詳しく記載されている。
地図	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・陸の高さや海の深さが地図に応じて色分けされており、その色数も他社よりも多い。 ・歴史地図や災害に関する分布図が詳しく掲載されている。 ・資料として、広島県広島市の豪雨被害が例に挙げられており、児童にとっても身近なものと感じやすい。 ・日本列島とプレートとの関係がリアルに描かれており、地震や火山の原因をとらえていくためにも有効である。 ・索引に記載された世界の地名の掲載数が多い。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
算数	学図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的な見方・考え方がキャラクター化されており、児童が意識して学んだり、見方・考え方の定着にも役立ったりするように工夫されている。 ・ 前学年で学んだ学習を領域ごとに振り返ることができる「学びの地図」があることで、児童が学びの連続性に気づくことができるようになっていく。 ・ 新しい単元に入る前に、これまでの学習や生活経験を振り返ったり漫画形式で既習事項を確認したりするなど単元展開が丁寧であり、導入をスムーズに図る工夫がなされている。 ・ どの単元も可能な限り日常場面から導入しており、現実の問題について数理的な思考力を使って課題解決ができるようにしている。 ・ 各単元末には、「できるようになったこと」で基礎問題、「まなびをいかそう」で発展問題に取り組めるようになっており、自己の定着状況を確認することができるようになっていく。 ・ 各学年に図解付きの「ノート名人になろう」のページがあり、低学年段階から学習内容に関連付けたまとめ方を、具体的に学ぶことができる。 ・ 「算数をつかって」では、算数で学んだことを使って現代的な課題に取り組むことができるようになっていく。 ・ 「算数パトロール隊」では、つまずきやすい内容を具体的に示すことで、児童がどこに気を付ければよいかわかるようになっていく。
理科	大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報量が多すぎず、児童が教科書を用いて学習しやすい。 ・ 問題解決の過程の用語が「考えよう」、「考察」など学年に合わせたわかりやすい表現になっている。 ・ 二次元コードをたくさん折込んでいて、子どもが動画を用いて自ら学習に取り組めるようになっていく。 ・ 学習のポイントを吹き出しなどを使い、丁寧に説明している。 ・ 4年で、雨水の行方から蒸発につなげるなど児童の思考に沿った単元構成を工夫している。 ・ 教育実習などを考えると比較的实践しやすい単元の配列になっている。 ・ SDGs や生活との関連を意識したつくりとなっており、資料なども多くない文字数でまとめられている。 ・ プログラミングを基礎編、応用編に分けて記述し、児童がレベルに合わせて学べるようになっていく。
生活	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領で示された育成を目指す資質・能力を、教科書紙面で分かりやすく具体化している。また、何ができるようになるのか、どこにポイントがあるのかがひと目で分かる「生活科の学びが見える」教科書となっている。 ・ 「個別最適な学習」を実現するために、児童の興味・関心・意欲等を踏まえて指導・支援する際に参考となるよう、具体的な例示や資料が掲載されている。 ・ 「協働的な学び」の実現に向けて、活動や体験を通して得た気づきを友達で伝え合う姿や、多様な他者と関わる姿などを、写真やイラストを用いて具体的に例示している。 ・ 上巻の巻頭では、スタートカリキュラムで行われる活動を生活科の内容で構成し、具体的に例示されている。また、スタートカリキュラムから他教科での学びへの接続が円滑に行われるよう、写真やイラストを用いて具体的に例示している。 ・ 生活科の学びがカリキュラムマネジメントの参考となるよう、教科書でも連携や接続がイメージできるように様々な活動例が掲載されている。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
音楽	教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・題材のめあてが明確に示されており、そのめあての達成に向けた音楽的支援が細かく示してある。 ・学年が増すごとに、学習がスパイラル的に深まるよう題材のめあてが設定されており、その系統性もはっきりと示されている。 ・学習活動や活動における留意点を、アイコンを用いて示しており、扱う題材・楽曲の特徴を児童自身が理解しやすいように工夫されている。 ・第3・4学年のリコーダーの学習では、扱う音の順序が「シ→ラ→ソ→（高い）ド→（高い）レ→ファ→ミ→レ→ド→（高い）ミ→（高い）ファ→（高い）ソ」となっており、ソプラノリコーダーの音域を幅広く習得することができる。 ・第5・6学年で扱う和声の題材では、歌唱表現・器楽表現・音楽づくりの3つの活動が設定されており、多様な音楽との関わりから、和声の響きや移り変わりを学ぶことができる内容となっている。 ・第6学年に「著作権」に関する特集があり、高学年での情報モラル・リテラシー教育と合わせて学習することで、児童の情報活用能力の育成につなげていくことができると考える。 ・ページの色づかいが題材ごとに分けられており、題材内の学習のポイントやまとめ、活動ごとのつながりを児童が意識しやすいように配慮されている。
図画工作	日文	<ul style="list-style-type: none"> ・学びへの意欲を引き出すことを大切にした紙面づくりをしている。活動中の児童の生き生きとした写真や、つぶやき、豊富な作品例が掲載されており、「やってみたい」という意欲を引き出すと共に、表現の幅広さを示し、自分なりのアイディアをもつことができるようにしている。 ・幼児期と小学校の学びを丁寧につないでいる。子どもたちが幼児期に学んだことを生かして、自信をもって取り組めるような特設ページが設けられている。「問いかけ」があり、自然と子どもたちの対話が生まれるよう工夫されている。 ・図画工作科と子どもたちの生活をつなぐ鑑賞題材。生活と図画工作をつなぐ鑑賞ページがある。身近なものから諸外国の美術作品まで、多様な色や形に出会う工夫がなされている。造形的な視点で捉えなおすことで、形や色の面白さや美しさに気付くことができるようにしている。 ・図画工作科の学びを教科・家庭・地域へと広げる。他教科での学習を生かしたり、関連付けたりした事例が掲載されており、教科横断的なカリキュラムマネジメントがしやすい。教科だけでなく、家庭で作品を使っている様子や、地域の方と共同して活動している事例など、家庭や地域ともつなげている。また、その関連付け方が自然であったり、考える余白があったり、子どもたちの思いに寄り添うものになっている。

種 目	発行者	採 択 理 由
家庭	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・全題材が「1 気づく・見つける」「2 わかる・できる」「3 生かす・深める」の3ステップで構成されているため、問題解決的な学習を行うことができる。 ・各題材の最後に、学習内容を振り返り、生活に生かすことを考えさせる活動例が19か所あり、児童の主体的な取り組みを促すような工夫がされている。 ・見開きページを活用して、写真やイラストを組み合わせることで、児童の理解を促す工夫がされている。 ・知識・技能の定着を図るために、「できたかな」の自己評価で振り返ったり、QRコードを利用した資料動画等で学習内容を確認・復習したりできるようになっている。また、巻末には調理及び製作の実習等の実践時のために、写真やイラストとポイントが大きく示してあり、児童がすぐに確認できるよう工夫されている。 ・家庭科で扱う重要語句を「家庭科でよく使われる用語」として巻末に示してあり、学びを結びつけながら基本的な用語の理解や獲得することにつながる工夫がされている。 ・学習内容につながる仕事をしている人のインタビューが掲載され、更に見開き1ページにまとめて紹介してあり、キャリア教育につながる学びになるよう工夫されている。
保健	学研	<ul style="list-style-type: none"> ・1 ページ当たりの情報量が適度に抑えられており、児童が何に対して、どのように考えればよいのかが明確である。 ・ページの色づかいが単元毎に分けられていたり、鮮明すぎず柔らかい印象の色が使われていたりするなど、学習の障害となるような色づかいになっていない。 ・単元の学習課題が他の情報の中に埋もれておらず、明確に示されている。 ・単元の学習段階が全単元において3ステップにまとめられており、1ステップ当たりの学習時間を十分確保しやすいと考えられる。 ・教科書に書き込む欄について、記述式のみでなくチェック式や比較式のものがあるなど、どのような考え方を働かせるとよいのかが教師にとっても分かりやすい。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
英語	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・文字や絵、写真が大きく掲載されており、紙面が見やすい。 ・話すこと（やりとり）の活動が多く設定されており、英語コミュニケーションを通じて学ぶことができる。 ・巻頭に前年度までの学習内容や、該当学年での学習内容、授業で使える表現が示されており、児童の主体的な学びを支えることができる。 ・各単元の初めにMainTaskとGoalまでのStepが示されている。また、各ページに学習進度が視覚的に示されているので、児童が見通しをもって学習を進めることができる。 ・各単元にストーリーがあり、使用場面を意識して英語表現を学ぶことができる。 ・「書くこと」に関わって、4線の間は白く、その周囲に色がついておりどこに書けば良いのかが分かりやすい。児童の書く活動を支える配慮がなされている。 ・各単元末に“Around the World”のページがあり、単元内容に関連した、世界の文化について学ぶことができる。 ・巻末にCan-Doチェックのページがある。書き込んで学びの足跡を残すことができ、自分の学習の様子や分かり具合、出来具合を振り返ることができる。 ・デジタル教科書の操作が容易である。児童用デジタル教科書では、使用に関わっての注意書きがあり、児童がデジタル教科書を使用するうえでの配慮がなされている。 ・各学年に付録としてWord Bookが付いている。カテゴリ毎にQRコードがあり、音声データの再生が容易である。
道徳	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のちから持ち」と称して、道徳の学習を通して身に付けたい心のちからを子どもたちに理解しやすい言葉で示してある。また、イントロダクションに、学習の展開と学び方が明示されており、子どもたちが学習方法の大枠をつかみやすい。 ・「考えよう」では、◎にその教材の中で道徳的価値に迫ることができる中心発問、○にこれまでの自分を振り返り自分を見つめこれからの生き方に生かしているための発問が示され、教材を通して学んだことを自分事として考えやすくなっている。 ・他教科・領域とのつながりが示されており、有機的な連関を考えやすい。特に、1年生の入門期には、子どもたちの生活経験に即した教材が配列されている。また、各教材に絵本が紹介されており、授業時間の弾力的な運用や日常生活への発展が図りやすい。 ・いじめ防止にかかわって、いじめの場面を直接的に扱う教材と、関連する価値から間接的に考える教材を組み合わせたユニットが配当されている。また、子どもの権利条約やいじめ防止対策推進法を分かりやすく使い、いじめを多面的、多角的に捉えさせようとしている。 ・明るく親しみやすい挿絵や子どもの心を揺さぶる写真が掲載されており、教材のねらいに迫りやすい。また、デジタルコンテンツが充実しており、教材文に関わるものに加え、発展的なものも掲載されている。

※ 「発行者」欄は、該当する発行者の略称を選択すること。

※ 必要に応じてセルの高さを変更してもよい（セルの横幅は変えないこと）。